



インターネットで分かる 自動車保険料の格差

多摩美術大学 / アスキー
石田 晴久

かつて画一だった自動車保険料は、規制緩和のせいで、今や、条件により各社まちまちになってきた。したがって、一番有利な保険を選ぶのは、なかなか大変だが、インターネットを使えば、簡単に比較ができるようになりつつある。それは、ひとつのホームページを通して、10社程度の保険会社から、いっぺんに見積もりをとることが可能になってきているからである。そうしたホームページの例としては、次のようなところがある。

- www.bang.co.jp/auto-asc/
- www.e-sekai.co.jp/
- www.bigbang.ms-inet.com/

bang.co.jpの場合、図-1の「Bang!からのアドバイス」という項目も参考になるが、「一発見積り依頼」をすれば、後日、数社から見積書が郵送されてくるようになっている。このとき図のホームページで入力する必要のあるのは、表-1のような項目である。

表-2は、こうして入手したものに、図にはなくて、別に電話で請求した分も含めて、数社から送られてきた年間保険料の見積もりを示す。この例では、対象の車はドイツ車だが、古いので、車両保険はつけていない（つける

車10年古、クラス=7、型式=H25	
ノンフリート等級 8 (30%割引)	
運転者と目的	シニア、男性、私用
年間走行	6,000キロ程度
26歳未満不担保	
車両保険、ABS、エアバックなし	
対人賠償	無制限
自損事故	1,500万円/1名
対物賠償	1,000万円/1事故
搭乗者傷害	1,000万円/1名
家族限定特約	あり
ファミリーバイク特約	あり

表-1 主な入力項目

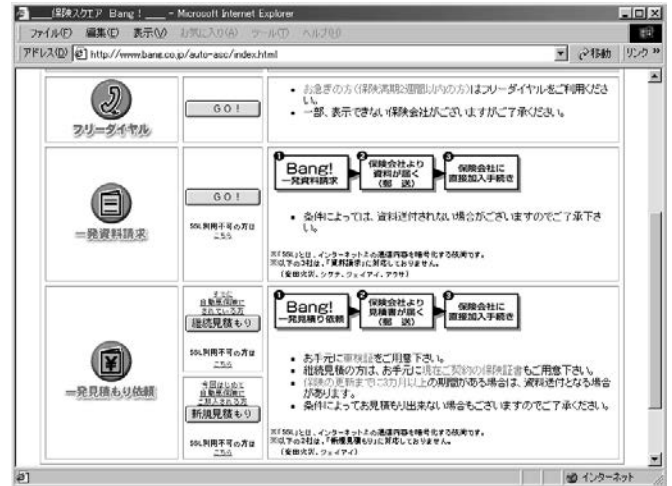


図-1 自動車保険の一発見積もりページの例

とかなり高くなる)。それはともかく驚くのは、会社によってかなりの開きがあることである。もちろん保険は、単に値段だけでなく、事故が起きたときにどんなサービスが受けられるかも問題だが、こうした比較がすぐできるのが、インターネットのすごいところである。これで、消費者が賢くなると、損保各社もうかうかはしてられない。

ところで、こうした見積もりだが、大部分の会社では、ユーザが入力した情報を元に、人手を介してやっている感じがする。この点でさすがという感じなのは、この10月に新規参入したS社である。S社のホームページで表-1のようなデータを入れると、直ちに（自動的に）見積もりが出てくるようになっている。ユーザとしては、郵送でなく、その場で見積もりがすぐ比較できる方がいいから、次の競争は、こうした見積書の素早い自動作成に移るに違いない。せつかく、店舗なし、営業マンなしで、24時間の営業ができるようになったのだから、人手で見積もったのでは、システムが泣くだろう。

RD社	¥44,040
S社	¥44,620
WT社	¥49,270
ZU社	¥54,650
DT社	¥61,010
[DT社	¥220,250 (フルサービス)]
MM社	¥64,080

表-2 年間保険料の例